

# 令和5年度鹿児島学習定着度調査の結果(速報値)とその分析

基礎的・基本的な知識・技能や、思考力、判断力、表現力等に関する学力の状況及び生徒の学習に関する意識や学び方などの学習状況を把握するために、1年生及び2年生の全生徒を対象とした「鹿児島学習定着度調査」を、1月16日(火)・17日(水)に、全県一斉に実施しました。

その速報値が発表されましたので、本校の結果と比較してお知らせいたします。

## 1 結果

(令和6年2月26日現在の県速報値との比較)

学年	第1学年					第2学年				
	国語	社会	数学	理科	英語	国語	社会	数学	理科	英語
本校	73.9	53.2	73.9	65.4	77.8	70.1	60.5	76.8	68.5	76.5
県平均との差	+3.4	-1.2	-0.4	-0.9	+0.8	+4.5	-1.8	+8.0	+1.6	+5.1

## 2 今後の各教科の対応策

年	科	分析結果	対応策
1年	国語	<p>【正答率の低かった問題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>部首(空) … 通過率16.9%</li> <li>誤答83.1%(うかんわり)</li> <li>条件作文(観点2) … 通過率51.7%</li> </ul> <p>他の問題と比較して無答率が高かった。14.6%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新出漢字に合わせて、これまで学習してきた部首の確認もする。</li> <li>根気よく問題文を読むこと、早く読みつつ問題を理解すること、条件に合わせた作文を書くことを意識した授業に取り組む。</li> <li>ワークでの未記入をなくすようによく考えさせる。</li> </ul>
	社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>領域別では、地理的分野の「世界の諸地域」と歴史的分野の「古代までの日本」の通過率が低かった。</li> <li>大問3問3のヨーロッパ州で行われている農業の特色についてと、大問5問3の壘田永年私財法に関する記述問題の通過率が20%台と低かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の特色や歴史上での出来事を多面的・多角的に捉え、さまざまな事象と結び付けて考える力を養うために、資料を活用する力を身に付けさせる授業を行う。</li> </ul>
	数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>正方形の意味や性質を理解し、対称移動した図形について考えることに課題がある。</li> <li>問題解決をするためにどのような代表値(平均値か中央値か最頻値か)を用いるべきかを判断することに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公立学校で使える教育ICT『まなびポケット』やかごしま学力向上支援webシステムの評価問題等の活用を通して、対称移動等に関する知識・技能や資料の活用に関する思考・判断・表現の能力を培う。</li> </ul>
	理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>知識・技能領域の通過率は67.9%、思考・判断表現領域は61.4%と、ともに改善が必要である。通過率が低い内容を分析してみると問題文の読み取りが十分できておらず、出題の意図を理解せず、安易に回答している誤答も多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>知識・技能については、学習アプリ等を活用し繰り返し学習で定着を図る。</li> <li>実験観察を行う際に目的意識や見通しをもたせることをさらに意識させていきたい。</li> <li>ICT機器を活用し、視覚的にも、より効果的な授業展開を心がける。</li> </ul>
	英語	<ul style="list-style-type: none"> <li>まとまりのある一定量の英文を聞いたり読んだりして、その内容を理解したり、その内容に合う情報を、図や表などから選ぶ問題に課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の本文以外に、初見の英文に触れさせ、求められている情報を正しく聞き取らせたり、素早く読みとらせたりする練習が必要である。</li> </ul>
2年	国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>無答率が2.1%</li> <li>【通過率が低かったもの】</li> <li>① 行書の特徴(33%)</li> <li>② 古文筆者の思いの読み取り(43.6%)</li> <li>③ 書くこと</li> <li>④ 返信の理由</li> <li>⑤ 話すこと・聞くこと</li> <li>発言に関する説明(39.4%)</li> <li>⑤ 話すこと・聞くこと</li> <li>相手に分かりやすく説明するスライドの順序(40.4%)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>長い文章を書かなければならない設問に対して無答率が見られるので、日頃から作文に取り組ませる。</li> <li>行書の特徴について3月に復習する。</li> <li>現代語訳等を参考にさせながら登場人物等の心情を想像させる。</li> <li>根拠の適切さなどを考えさせる。</li> <li>筋道の通った論理にするために根拠の適切さなどについて考えさせる。</li> <li>視覚に訴えさせることの効果や適切に伝えるために有効かを考えさせる。</li> </ul>
	社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>領域別では、地理的分野の「日本の諸地域」と歴史的分野「近世の日本」の通過率が全体の中では低かった。</li> <li>大問6問3の江戸時代の政治に関する問題と問4の江戸時代の文化に関する問題の通過率が低く、定着していない状況が見られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料活用能力を養い、多面的・多角的に地域の特色について考える力を身に付けさせる。</li> <li>出来事を順序だてて、歴史的な事象を関連付けながら理解する力を養う。</li> </ul>
	数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>角の二等分線の作図方法を理解することに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公立学校で使える教育ICT『まなびポケット』やかごしま学力向上支援webシステムの評価問題等の活用を通して、平面図形の作図等に関する知識技能の能力を培う。</li> </ul>
	理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>知識・技能領域の通過率は、79.8%と高く、おおむね満足できる状況であるが、思考・判断表現領域は、55.2%と改善が必要なことが読み取れる。特に光合成の実験方法から結果を考察するなど、科学的な思考力を問いかける問題の通過率が低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎学力については、日々の努力の意識も高く定着してきているとおもわれるが、実験の考察など、条件などを考慮し、科学的な思考力をもって推察する力が弱いので、できる限り実験を体験させること、また、実験を行う前に実験の目的意識をさらに高めることを努めていく。</li> </ul>
	英語	<ul style="list-style-type: none"> <li>まとまりのある英文を読み、その内容を理解して、空欄補充を行う問題に課題がある。</li> <li>与えられた英語や日本語の情報をもとに、正しい語順や英語で表現する問題に課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書やそれ以外の英文を読む機会を設定し、要点をつかむ練習を行う。</li> <li>基本的な文構造や、重要表現の理解や定着を図るために、その練習を工夫して行う。</li> </ul>